

# 令和2年度 事業計画

## I. 事業方針

2015年に第3回国連防災世界会議で仙台防災枠組が策定されて以来、世界では防災の機運がこれまでになく高まっていますが、未だに相次ぐ大災害の発生を食い止めることには成功していません。地球温暖化に伴う気候変動の影響はすでに顕在化し、今後更に災害リスクが高まる恐れもある中、解決のための具体的な適応策の実施はもはや待ったなしの状況となってきています。

一般財団法人・世界防災フォーラムは、東日本大震災や世界の大災害からの経験や教訓をもとに、産官学民での防災のソリューションの追求や国際的な共有を目的とし、防災(BOSAI)という概念の薄い国や地域に対し、防災・減災・復興の考え方を世界各国の政策や社会・文化に浸透させる事業を行ってまいります。そして、この事業を通して仙台防災枠組、パリ協定、持続可能な開発目標(SDGs)の達成や実施のために貢献してまいります。

## II. 個別事業

### 1. 公益事業

#### (1) 情報発信事業

(2021年第3回世界防災フォーラムの開催の準備)

世界防災フォーラムは、スイスの防災ダボス会議と連携し、国内外から産官学民の防災関係者が集まる日本初(仙台発)の国際フォーラムであり、本フォーラムはアジアに重点を置き、市民参加型の国際フォーラムを目指しています。

本フォーラムは、初会合として、2017年に仙台で開催され、次会合は2019年に同じく仙台で開催されました。東日本大震災に関する知見の共有や防災の具体的な解決策の創出等を踏まえ、「仙台防災枠組2015-2030」の推進及び「BOSAI」の主流化を仙台から世界へ浸透させることを目指し、40近い国と地域から1000名近い参加登録者を得て、市民参加も含めると1万人を超える人たちに会場いただきました。第3回にあたる「世界防災フォーラム2021」は、東日本大震災から10年目の佳節の年に行われることとなります。

2020年の財団の活動は2021年に開催予定の第3回世界防災フォーラムを成功に導くために極めて重要です。下記の具体的な防災関連の国際的なイベントを企画し、恒常的な啓発活動をすることで財団のさらなる組織固めを行い、盤石な体制のもとで2021年のフォーラムを開催できるように準備してまいります。

(三陸国際芸術祭での防災文化シンポジウムの開催)

8月下旬に岩手県の沿岸市町村で開催予定の三陸国際芸術祭での防災文化シンポジウムの開催にあたり、国際交流基金から業務委託を受けて財団が企画・運営を担い、国内外からの専門家等を

招聘し、防災を文化として後世に継承していくことの重要性を共有し発信してまいります。

(世界防災関連博物館のネットワーク構築事業)

災害を忘れないことは防災活動の中で一番大切なことのひとつです。財団では、災害の経験を忘れずに記録し、次世代につないでいくためにはどうしたらよいかを追求してまいります。その活動の一つとして、世界中の防災関連博物館のソフトなネットワークを構築してまいります。

(世界津波博物館会議支援事業)

2020年秋に国連防災機関や外務省が主催する第三回世界津波博物館会議が東北で開催される可能性があります。財団ではこの活動に貢献していきたいと考えています。

## (2)調査研究事業

(災害リスクの把握・分析及び報告書の作成)

防災・減災・復興の考え方を世界各国の政策や社会・文化に浸透させるためには、災害が社会や経済等に与える影響を、一般にもわかりやすい形で示す必要があります。特に仙台防災枠組のグローバルターゲット達成のために、各国が整備する災害被害統計とリンクした東北大学災害科学国際研究所に設置された災害統計グローバルセンターの活動を支援し、その成果を報告書等の形で世界防災フォーラムの場で定期的に発表してまいります。

## 2. 収益事業

「世界防災フォーラム2019」を記念し、オリジナルグッズを企画、製作し販売いたしました。本年度は世界防災フォーラムを開催する年ではありませんので、基本的に収益事業を行う予定はありません。

以上